

九州～東京 34時間の旅



飛行機が2時間足らずで九州と東京をぶっ飛ぶ中
同じ区間を2泊34時間かけて結んでいるフェリーも存在する
実際に乗船してどのように過ごしたかレビューしてみたい

乗船日

フェリーびさん 新門司→東京
2019年11月1日(金曜日)

長距離の中の長距離フェリー

皆さんは同じ乗り物から一切下車せずに24時間以上連続で乗り続けるという体験をしたことがあるだろうか。まあ自家用車ならワンチャンあり得るかもしれない。この本の関係者にシベリア鉄道に乗ってきた強者が居るが、そのへんも特殊なので除外するとして…

国内の交通手段に限ってみると現在は陸路・空路ともに24時間以上運行するものは存在しておらず、唯一フェリーの一部航路で24時間超えの航路が存在する状況である。

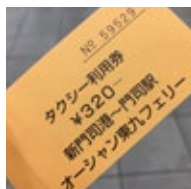
太平洋フェリー	名古屋→苫小牧	2泊40時間
新日本海フェリー	苫小牧→敦賀(寄港便)	2泊34時間
オーシャン東九フェリー	新門司→東京	2泊34時間
マルエーフェリー	鹿児島→那覇	1泊26時間

この4航路が24時間以上連続で乗り続けることができるフェリーとなる。どれも一回は途中で寄港するが、仙台に3時間近く停泊する太平洋フェリー以外は基本的に下船できない。

今回はオーシャン東九フェリーで34時間かけて、北九州から東京へと移動した話となります。

新門司港へ

オーシャン東九は新門司にターミナルを持つ他のフェリー会社とは違い小倉駅からの無料バス送迎は行っておらず、門司駅から乗り合いタクシーでの移動となる。タクシーと言っても320円均一となっており、乗る際に専用のタクシー券を売ってもらえる。タクシーはごくふつうのタクシーを予約車としたものであり、こ



の日の送迎利用はわずか5人で2台に分かれて乗車した。たしかに普段がこの程度であればバスの必要はない。

ターミナルまでは山を越えて20分程度。連絡バスでも思うがこの区間は港に向かうというのにゴリゴリに山越えしていく不思議な状況である。新門司が門司から見て山の反対側にあるせいではあるのだが、このおかげでフェリーは運行上のネックでもあった関門海峡を通らなくてもよくなり、九州道からのアクセスもよくなったというメリットもある。

ターミナルに到着していざ手続き。オーシャン東九はWEB予約した場合チェックイン機が利用できる。のだが、予約した筈なのに出てこない。あるえ?とよく確認してみると、予約したものの前日までの決済をすっかり忘れていた。オーシャン東九のWEB割引は1000円程度ではあるがちょっと痛い。無事窓口のほうで買いなおして、定価で乗船チケットをゲットした。





乗船ファーストインプレッション



18時半ころに乗船開始。一般乗客自体は10人程度のように見える。これだけ見ると閑散すぎてヤバイ感じがしたが、この航路はほぼ貨物メインなので大丈夫であろう。要するに普段からこんなもんなのである。オーシャン東九は実は2度目で、前は2010年頃に東京→北九州で乗船したが、やはりこの

程度しか乗っていなかった記憶がある。

昔は安く移動できたフェリーだが、LCCの台頭に高速料金の値下げで必ずしも安い移動手段とは言えなくなってきており、マイカーや原付・自転車と楽に移動したいという需要を除けば、我々のような「フェリーまる一日過ごしてみたい」といったニッチな需要しか期待できないのが現状である。実際自分も結構ギリギリまでLCCを使うか悩んでいた。

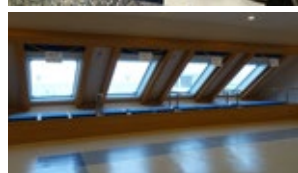
そんな感じでこのフェリーは旅客設備についてはかなり合理化が図られている。その最大の特徴として、なんとレストランが船内にないのだ。オーシャン東九では1996年に就航したおーしゃんさうす・おーしゃんの一すでレストランを省略し、供食設備を自動販売機のみにするという思い切ったフェリーを投入したが、2016年に就航したこの新造船についてもその方針が引き継がれている。



船内に入るとまずエントランスだが、ここにはインフォメーションのほか売店、オーシャンプラザ（オートレストラン）、ロッカー、ゲームコーナーなどがあり、公室機能のほとんどがこの場所に集まっている。船内に入っていきなり自販機と電子レンジが並んだ空間に出迎えられるのはなかなか異様である。案内図を見ると船内も5階だけのワンフロアで構成されており、やはり他社と比べると特殊な構造となっている。オーシャンプラザの向こう側が客室となっており、中央あたりには大浴場とテレビ、ランドリーなどが置かれたリラクゼーションスペースが設けられている。その先にもう一度客室があり、先端は前を展望できるフォワードロビーとなる。屋上デッキに出ることもできるが夜間は閉鎖される。乗客が立ち入りできる空間はこの程度であり、他のフェリーに比べると正直探索し甲斐はない。

客室は極めてシンプルでベッド席と2～4人個室の二タイプしかない。今回はベッド席にした。

レストランがないため船内で営業時間が存在するのはインフォメーション・売店と酒類の自販機のみである。ご飯はいつ食べても良いし、風呂も乗船中は入り放題。いつでも寝放題ということである。



乗船中の食事

さて、この船で過ごすにあたって一番気になるのはやはりメシであろう。やはり冷食自販機・オートレストランのみというのは不安しかない人も多いかと思う。自分も悩んだ結果、最初の2食を持ち込みで済ませて2食だけを船内調達にした。

◇1日目晩飯：持ち込みコンビニ弁当（ラーメン+おにぎり）

◇2日目朝飯：持ち込みパン

◇2日目昼飯：カップ徳島ラーメン+小鉢煮物+パックご飯



◇3日目晩飯：塩ホルモン+鶏炭火焼+鳥スープ+パックご飯



自販機ではカップ麺がコンビニ価格の140円から、冷凍うどん・そばが300円程度。その他にもチャーハンやカレーといった冷凍食品も置いてある。主なメニューについては下に公式サイトに案内されているものを転載しておく。

ドライバーが多いためか七味や塩などの基本調味料はフリーで置いてある。器やわり箸・フォークなども常備してある。給茶機もあるのでお茶も飲み放題である。ただし製氷機は設置されておらず、氷は自販機で売られている。

メニューは冷凍食品ながらもいろいろ用意されているので、最大4食の中ではそうそう困ることはないであろう。個人的にはパックご飯がどれも200円なのが地味に痛かったもので、ご飯を多めに食べたい人は乗船前に調達しておくとの良い。あと野菜系もぜんぜん取れないので気になる人はカップサラダなどを用意しておくとの良いだろう。なお冷蔵庫は個室にしか装備されていないので、要冷蔵のものを持ち込む際は注意。

もう一つ船内で売っていないものとしてはお菓子類がある。一応つまみ系の自販機はあるのだがお菓子はスティックポテト程度で、袋菓子やチョコレート系のものなどは船内では入手できない。食べないと禁断症状が出る人はあらかじめ買いこんで乗船しよう。



ほぼ用事のない売店

オーシャン東九の売店に置いてあるのは東京・九州・四国のお土産とオリジナルグッズ程度であり、他の船のようにお菓子やアメニティなどは置いていない。タオルや歯ブラシなどのアメニティ類はリラクゼーションスペースの自販機で購入できる。ということで乗船時もありお世話になる人はいない感じであった。



ご案内



冷凍食品



レトルト食品ほか



34時間をどう過ごしたか

34時間の長い船旅。実に持て余しそうであるが、その間は
このように過ごしていた。

◆ 188

- ◇18:30 乗船・船内散策
- ◇19:10 出航
- ◇19:40 晩飯
- ◇21:00 原稿

オーシャンプラザで原稿。まだ豊予海峡あたりなので普通に電波は通じる。以降時間が空いてる場所は基本寝てるか原稿。

- ◇23:40 水の子島灯台通過

◆2日目

- ◇ 0:00 風呂

24時間開いているのでありがたい。

- ◇1:00 就寝
- ◇8:30 起床
- ◇9:20 徳島着
- ◇9:30 朝飯(持ち込みパン)
- ◇11:20 徳島出航

徳島では2時間停泊するが、ペットの散歩以外での下船は認められていない。

- ◇14:10 昼飯(ラーメン)
- ◇15:10 潮岬通過
- ◇17:00 デッキで夕日を見送る
- ◇17:30 電波なくなる

紀伊半島を離れて2時間半。案外もっていた電波がついに途切れた。ここから伊豆方面までつながなくなる。

- ◇ 19:10 晚飯
◇ 20:00 就寢

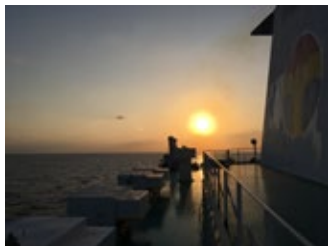
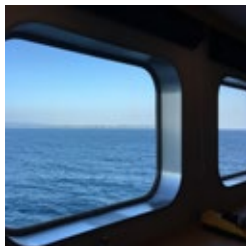
電波も通じないので早めに寝ることにした。

◆ 3日目

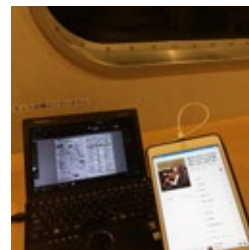
- ◇1:00 起床 下田沖付近
◇1:20 風呂

こんな時間でも風呂に入れるのがありがたい。以降原稿。

- ◇ 5:30 下船準備
◇ 6:00 東京港到着



そんなわけで、基本は原稿をやって過ごしていた。ベッド席だった自分はオーシャンブラザで作業することになるが、徳島からの乗船を含めても旅客は30名程度と思われ、混雑については特に問題はなかった。ただし、案外コンセントが用意されていないこともあり、運が悪いと先に使われていることもありそうである。



定番は本を持ち込んで消化するのがベストであろうか。前述の通りネットにつながない時間も多いのでオンラインコンテンツで時間をつぶそうとする場合はご注意ください。個室であればテレビもあるので過ごし方の幅は広がるかもしれない。

ところでどのくらい原稿が進んだかはノーコメントとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

意外と早いぞ34時間

乗船前はひたすら長い時間に思えたが、実際に乗ってみると案外あっけなく東京についてしまった印象がある。積んでるものを消化するぞーと意気揚々と本を抱えて乗船しても、意外とたいして消化しきれないかもしれない。アッ決して原稿が進まなかったわけではない。

そもそも東京九州フェリーが出来たらオーシャン東九選ぶ必要
 くない？ それはそう。とはいえ、他の長・長距離フェリーは
 施設が充実してクルーズ化していたりひたすら島を結んでいく生
 活感溢れる航路だったりするので、純粋な貨物航路の雰囲気
 に近いオーシャン東九はこれはこれで唯一のものである。機会が
 あればぜひ乗ってみてほしい。

